

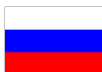
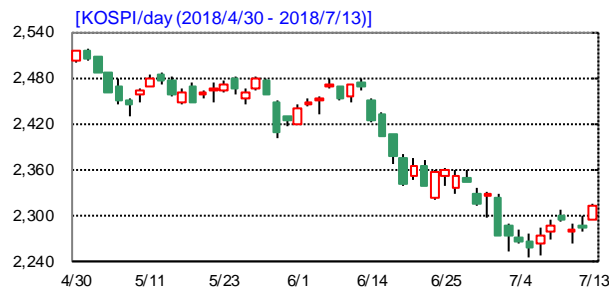


【韓国】 総合指数は週間で1.7%高と5週ぶり反発、今週も米中摩擦の動向に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.7%高と5週ぶりに反発した。週初の9日は反発してスタート。前週末に発表された米雇用統計が堅調な内容だったことを受け、投資家心理が改善した。10日も米株や中国株の上昇を手掛かりに続伸。ただ11日は米政権が2000億米ドル相当の中国製品に課す追加関税のリストを公表したことを受けて、米中貿易摩擦激化への懸念が再燃し、4営業日ぶりに反落した。12日は中国株や香港株の上昇が買い安心感を誘い、小幅に反発。13日は米中摩擦を巡る過度な懸念が和らぎ、節目の2300ポイントを回復して2週ぶり高値を付けた。今週は貿易摩擦を巡る米中の動向を睨んで神経質な値動きか。最大の貿易相手先である中国が16日に発表した4-6月期のGDP成長率はやや鈍化しており、影響が注目される。

▼指数チャート

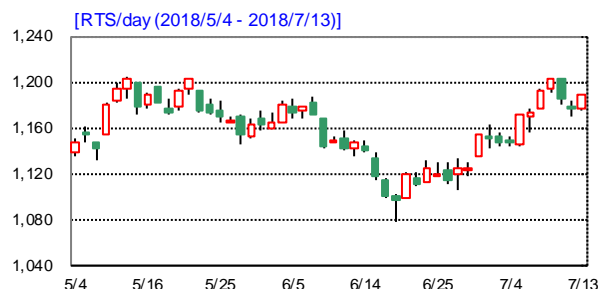


【ロシア】 RTS 指数は1.4%高と4週続伸、今週は西側との関係改善期待で堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は1.4%高と4週続伸。米中貿易戦争への懸念や原油相場の下落を受けて落ち込む場面もあったが、金融市場全般でリスクオンの流れが続いたことがロシア株の支援となった。指数は前週までの好調な流れが続き、10日まで4営業日続伸したが、11日は原油相場の下落や米中貿易戦争への懸念が強まったことで反落。12日も続落したが、13日は主要国の株式市場が軒並み上昇したことや、翌週にフィンランドのヘルシンキで予定されていたプーチン大統領とトランプ米大統領との会談への期待感を背景に反発した。個別ではエネルギーのルクオイルなどが指数の重しとなったが、スベルバンクなどの金融株が上昇し、指数を支えた。今週は原油相場が懸念材料となるが、西側諸国との関係改善期待を背景に堅調持続か。

▼指数チャート

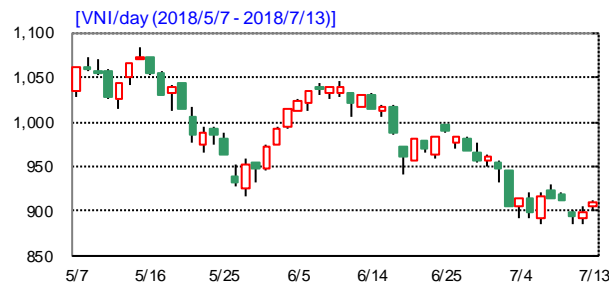


【ベトナム】 ベトナム指数は0.8%安と5週続落、今週は売り一巡感から買い戻しか

先週の動き／今週の展望

ベトナム指数は0.8%安と5週続落。資金流出懸念が続き指数は約8カ月ぶりの安値水準まで下落したが、その後は買い戻しが優勢となり、下落幅を縮小して終了した。資金流出懸念を背景に週明けから不動産株や金融株が売られ、指数は週明け9日から11日まで3日続落。12日には一時前週末比3.6%安の884.75ポイントまで下落し、約8カ月ぶりの安値をつけた。その後は売り一巡感から買い戻され、0.6%高と4日ぶりに反発。13日も前日比1.2%高と続伸し、週間の下落幅を縮小して終了している。個別ではペトロベトナムガスやベトナム産業貿易商業銀行が3%超上昇し指数を支えた一方、不動産のビンググループ、ビンホームズが3%前後下落し、指数の重しとなった。今週は売り一巡感から買い戻しの流れが続くか。

▼指数チャート

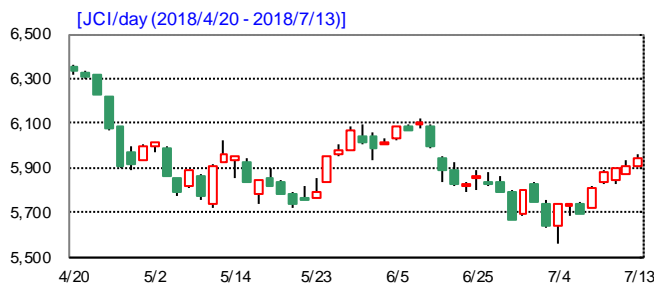


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 4.4%高、今週は 6000 ポイント回復を試す展開か

ジャカルタ総合指数は週間で 4.4%高と 4 週ぶりに反発。週初から 5 日続伸と好調だった。9 日は前週末の NY ダウが 6 月の米雇用統計の内容が好感されたことなどを受けて続伸した流れで前営業日比 2.0%高と反発。10 日も勢いに乗り、さらに 1.3%高と続伸した。その後もじりじりと上値を広げ、12 日には終値ベースで 5900 ポイントに到達。13 日は 5 週間ぶりの高値を更新して取引を終えた。今週は 19 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。中銀はルピア防衛を目的として、5 月以降に 3 回の利上げを実施してきたが、今回は前回に続き 5.25%に据え置かれるとの見方が優勢となっている。

▼指数チャート

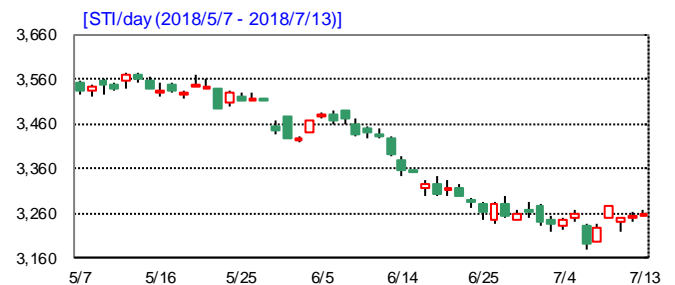


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 2.1%高、今週は 6 月の非石油地場輸出が焦点

スレーツタイムズ指数は週間で 2.1%高と 5 週ぶりに反発。前週末までの反動で、総じて堅調な値動きだった。9 日は前週末の米株相場や、週明けの上海総合指数が上昇した効果で金融株が指数上昇をけん引し、終値ベースで前営業日比 1.2%高と反発してスタート。10 日はさらに 1.4%高と続伸したが、11 日は反動で売られた。ただ、12 日に反発すると、13 日は 4-6 月期の GDP 成長率(速報値)が前年同期比 3.8%と市場予想の 4.1%を下回ったものの影響は軽微で続伸して取引を終えた。今週は予想から下振れした 6 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。外部要因では米中貿易戦争の動向が注目されそうだ。

▼指数チャート

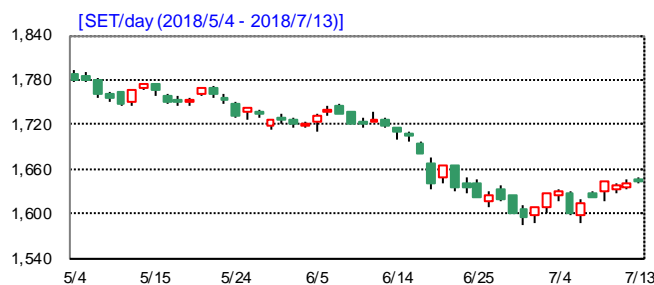


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.8%高、今週は 20 日に 6 月の貿易統計(通関ベース)発表

SET 指数は週間で 1.8%高と続伸。国内の重要イベントが少ない中、おおむね堅調に推移した。週前半は原油の供給不足に対する懸念が広がったことを受けてエネルギー株が買われ、指数は 10 日まで 3 営業日続伸。11 日は、前日に米国が中国に対する 2000 億ドル分の追加関税リストを公表したことが嫌気されて反落したが、12 日はソントラット商務相が今年の輸出の成長率見通しをこれまでの 8%から 9%に上方修正したことが好感されて反発すると 13 日も続伸した。今週は 20 日に 6 月の貿易統計(通関ベース)が発表される予定。外部要因では 4-6 月期の GDP を含む中国の経済指標への反応が注目される。

▼指数チャート

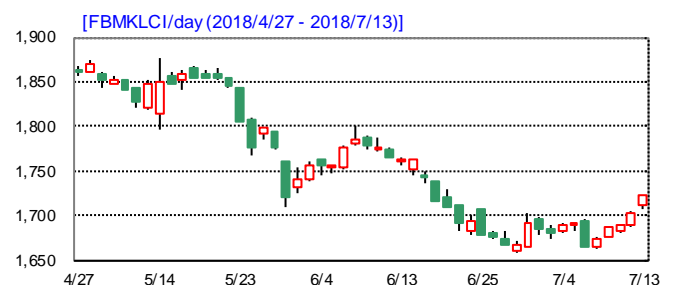


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 3.5%高、今週は 6 月の CPI に注目

クアラルンプール総合指数は週間で 3.5%高と 5 週ぶりに反発。地合いが好転する中、週初から 5 日続伸となった。週初の 9 日は前週末に下落した反動で、通信大手アジアタ・グループなどの優良株が指数上昇をけん引。その後もじりじりと上値を広げ、12 日に終値ベースで約 3 週間ぶりに節目の 1700 ポイントを回復すると、13 日は前日比 1.1%上昇して週の取引を終えた。今週は 18 日に 6 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 5 カ月連続で 2%以下になるとの見方が優勢。中央銀行は 11 日に開催した金融政策決定会合後の声明で、今年のインフレ率が従来の予想を下回るとの見解を示している。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。